

第5章 地域の行動

第1節 環境市民会議の取組

地域の環境を保全し、回復させるには、市の環境施策を推進するとともに、市民・事業者の自発的な環境保全活動が不可欠となってきます。

ここでは、環境市民会議が各地区においてそれぞれ調査した環境の現状と、一年間の活動や取組を報告します。

皆さんが住んでいる地区の身近な環境について、「知る、考える、行動する」きっかけとなれば幸いです。

環境市民会議とは？

市内を6つの地区に分け、その地区の環境が良くなるよう自ら活動する団体です。市内在住・在勤・在学の方であればどなたでも参加できます。

環境保全の取組は、一人ひとりの行動が最も重要ですが、その地区の取組の推進力となるのが環境市民会議です。地区内の町会・自治会や事業者、あるいは各種団体との連携を図りながら活動しています。

環境基本計画では、地区ごとにめざす環境の姿を定めるとともに、地区の環境の現況・課題を整理し、その解決に向けた主な取組などを「地域の行動」として示しています。

この地域の行動は、環境市民会議によって策定されたものです。

6地区の位置図



中央地区環境市民会議が調べた環境の現状

地球温暖化防止活動やごみの削減対策では、地球温暖化防止活動推進員などが中心となり、イベントのブースなどで啓発活動を行いました。しかし、市民の意識はまだ不十分なところもあるので、今後も一層の地道な活動が必要です。

河川的环境については、度重なる豪雨等で浅川の状態が変化し、全体的に平坦になりました。生態系も変わり、ウグイ、ホトケドジョウなどが今まで確認できた場所で確認できず、減少していると思われます。また、川のごみについては洪水の影響により少し減少しました。

まちのみどりの保全活動では、環境グリーンマップでの樹木などの把握が十分でなく、更新が必要です。大気汚染測定では、二酸化窒素の基準値がいずれの測定箇所でも下回り、漸減していますが、交通量の多い地点では継続して調査を行う予定です。

■ 中央地区の主な取組

1 地球温暖化防止のための省エネ生活の推進

地球温暖化防止活動推進員として、中央地区から6名が参加し、家庭グループのリーダーを務めました。年間を通して、「家庭の省エネ講座」の講師を推薦するとともに、講座を実施し、今の環境問題や市民が自らできる省エネ行動を説明しました。5月にはゴーヤの苗作りを中央地区のメンバーで行い、6月の環境フェスティバルで環境クイズの景品として配りました。



「家庭の省エネ講座」(大和田市民センター)

2 ごみの分別徹底とリサイクルの推進

4月の春のみずき通りフェスティバル、7月の中野市民センター七夕まつり、10月の子安・大和田市民センターまつり、11月のいちょうまつりで「環境コーナー」を設け、クイズを通して正しいごみの分別を説明しました。クイズの景品として八王子のダンボールコンポストで作ったたい肥を配布し、家庭での生ごみのたい肥化について呼びかけました。



環境フェスティバル

エコひろばでは「もったいない委員会」に参加し、「あったかホールまつり」などのイベントを支援するとともに、ダンボールコンポスト事業では生ごみリサイクルリーダーとして支援しました。

3 河川の清掃活動

清掃活動を、浅川で1回(4月)、川口川で1回(12月)実施しました。また、水生生物・水質調査活動時にも、周辺を中心に流れの中や河川敷のごみを収集し、延べ32名の参加で可燃物39.5袋・不燃物10袋・一人当たり1.5袋分のごみを回収しました。



河川クリーン活動(中野橋付近)

4 河川の巡回観察・調査活動の推進

河川巡回を浅川で27回、南浅川で4回、山田川で4回、川口川で1回実施しました。活動内容は会議時に報告し、必要に応じて管理者に実状を報告しました。

調査活動については、大型台風の影響で活動内容を調査地の整備作業に変更し、台風被害の修復を行いました。

水生生物の調査活動を3回（延べ12名参加）、水質・流量の調査を6回（延べ20名参加）実施しました。また、6月の「身近な水環境の全国一斉調査」にも参加しました。

5 環境教育・環境学習などの推進

9月の自然体験講座「浅川ふしぎ探検」は台風により中止しました。中央地区小学校6校に対し、環境教育支援事業として川の体験学習を9日間行い、延べ34名が支援しました。八王子浅川水辺の楽校運営協議会への協力として、5月にアユ(1回)、6月にウグイ(5回)の放流に延べ16名、7月の「ガサガサ探検隊」に9名、9月の「水辺の環境教室」に1名が参加しました。桑都ライオンズクラブ「川で遊ぼう」は3名が参加しました。

6 まちのみどりの保全などの調査活動推進および啓蒙活動の推進

(1) みどりの保全活動

第十小学校の関係者と6月に1回、7月に3回打ち合わせを行い、8月に校庭の25本の高木に名札を付け、9月に6本の低木に名札を取り付けました。

(2) まちなかウォッチングの実施

10月に自然体験講座『八王子市街地の社寺・巨木・治水地跡の見どころ探索』を開催しました。17名の参加者はガイドの説明に聞き入り、八王子市民でありながら初めて知ることも多く、今後も是非参加したいと好評でした。

(3) 環境フォトコンテスト展

令和2年1月22日～30日の間、村内ファニチャーアクセスで開きました。出展者は会員8名、一般4名で、合計76点の作品が集まりました。入場者は102名、子どもから年配者に渡って好評でした。次回はこれぞ環境問題という作品の応募を期待しています。

(4) 大気汚染測定

6月と12月に10か所を測定しました。いずれも基準をクリア（基準：NO₂濃度測定；0.04～0.06ppm内又は以下）しており、かつ、漸減しています。今後のインフラ整備、産業構造の変化による推移を見届けます。



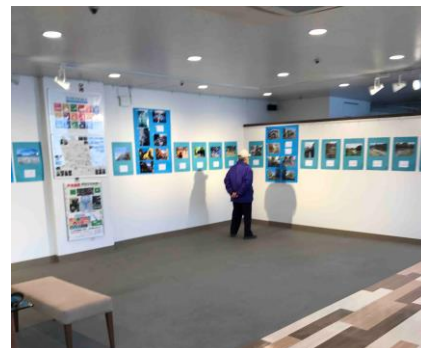
湧水集水地 水質と流量調査
(萩原橋上流)



川の体験学習(小学4年生)



一守大鳥神社前



写真展会場風景

北部地区環境市民会議が調べた環境の現状

北部地区の東エリアは住宅地が開発されており、その中には、従来からの緑地が保存緑地として保存されている箇所もあります。西エリアは南・北加住丘陵があり、豊かな緑が残っています。地域の中央には谷地川が流れ、上流では従来からの自然護岸が残っています。

交通面では、国道16号、16号バイパス、国道20号、滝山街道に加え、新滝山街道が開通し、中央自動車道八王子ICの他に圏央道あきる野ICも近くに建設され、交通の要衝となっています。

このような状況の中で、以下の課題も顕在化してきており、多分野からの対応を求められています。

- ・谷地川上流部での水質・水量を改善する
- ・加住丘陵などで、手入れが行われない樹林地が存在
- ・生活の場所から見えない場所でのごみの不法投棄
- ・環境保全活動が共通の認識になっておらず、温度差がある
- ・小・中学生が地域にある貴重な自然資源や文化、歴史を知る機会の少なさ
- ・地域内の幹線道路の大気汚染の状況は横ばいである

■ 北部地区の主な取組

1 谷地川の調査と清掃活動

谷地川の7地点で、隔月ごとに水質調査(COD、pH、電気伝導度、溶存酸素等の定点観測)を実施しているほか、水量調査と生物調査を年1回実施しています。また、6月2日に実施された全国一斉水質調査に、継続して参加しています。

9月1日の市主催の「川の清掃デー」では、滝山二丁目町会と協働して川の清掃を行い、草が繁茂している河川敷に入りごみを回収しました。



谷地川(河川敷)の清掃

2 緑地保全活動

北部地区の環境活動団体と協働して、都の緑地保全地域(4か所)、市の緑地(3か所)等を保全・整備しています。令和2年1~2月にかけて、大谷緑地保全地域で計画的に行っている萌芽更新を実施し、雑木林の一区画を皆伐しました。林床は一変し、今後も保全活動をしながら植生の変化を観察していきます。

また、暁町緑地保全地域ではアカマツ群にマツノザイセンチュウに由来する松枯れが全面的に発生し、都、市と協働して皆伐燻蒸処理を実施しました。



チェーンソーを使用する皆伐作業

3 環境教育・環境学習などの推進

小宮小学校、第八小学校の4年生並びに宇津木台小学校の全学年を対象に、多摩川及び浅川で自然を学ぶ授業を支援しています。環境教育として体系的なプログラムであり、小学生には非常に有効です。延べ4回実施し、実施後には環境学習活動の概要を示すパネルを作成しました。

市内の他団体とともに、大和田小、第八小、緑が丘小、渋谷区の代々木山谷小に対して、里山林の意義と活用の仕方を学ぶ活動を実施しました。



自然体験を通じた環境教育

小学生の自然体験は、楽しみながら自然を体験し学ぶ場になっています。大学生に対しては、東京グリーンキャンパスプログラムとして、首都大学東京(現・東京都立大学)の学生に対して秋に1回、また、企業に対しては、東京グリーンシップアクションとして、緑地整備の体験を通して、環境問題や緑の保全の重要性を理解してもらうプログラムを2回実施しました。また、都主催の「里山へGO!」にも協力・参加するとともに、近隣住民との関連を重視し、里山林の意義と活用を知っていただくことを趣旨に、里山で子供向けのプログラムを市民講座として実施しました。

4 大気汚染測定

地区内の幹線道路、その他の道路、道路に面さない場所等を対象に二酸化窒素濃度の定点調査を年2回(6月、12月)、都内一斉調査日に継続して実施しています。6月は37か所、12月は41か所で調査しました。従来6月の濃度は低め、12月は高めの傾向でしたが、令和元年度は6月の濃度が平成30年12月並みの高い値でした。12月の濃度は多くの場所で平成30年12月よりも低くなりました。都内、市内全域でも同様の結果でした。また、地区を通る16号バイパスでは、やや高い濃度の測定値が継続して記録されています。

5 地域との協働活動の推進

「環境市民会議」の知名度をアップするために、石川・加住市民センターでの市民会議活動状況のパネル展示、市民対象の雑木林探検隊開催(エコひろば共催)、ダンボールコンポスト講習会での活動紹介等を行いました。また、6地区環境市民会議の協働活動実行委員会の一員として、自然体験講座では「はち六自然巡りアワード」を実施したほか、「NPOフェスティバルはちおうじ」へ参加し、市民への広報活動を行いました。



石川市民センターでのパネル展

■ 特色のある取組

1 環境フェスティバルへの参加

地区内の活動を紹介するパネル展示と、谷地川で捕獲した生き物を水槽に入れた展示は、子どもたちの興味を引きました。恒例の花ポットの配布も人気があったほか、野草の押し花で作る葉は、小さな花を身近に感じられるものとして、女性に人気がありました。

2 環境パネル展への参加

市主催の第10回環境パネル展に6地区共通の活動内容である「自然体験講座」の概要説明パネル1枚を作成・展示しました。

3 自然体験講座の実施

年2回、当地区にある自然と歴史の資産である滝山城跡と高月の田園風景を紹介するための散策会を計画しました。秋季の滝山城跡巡りは、歴史をテーマにした散策でした。

4 スキルアップのための施設見学の実施

ビール工場を訪ねて、製造会社としての環境配慮について伺うことができました。



自然体験講座(滝山城跡)

5 新型コロナウイルスの影響

令和元年度末からの新型コロナウイルス感染防止対策により、谷地川水質調査、環境教育、春季の自然体験講座(高月田園散策)、施設見学(UR 都市機構)等が中止になりました。

西部地区環境市民会議が調べた環境の現状

西部地区は、八王子市の40%の面積を占める地区であり、山間丘陵地・河川源流・里山田畑の自然環境に恵まれた中に公園や住宅地を有しています。現在の環境を末永く守り継続していくため、私たちも観察や保全活動に取り組んでいます。

特に、居住地域や小学校の自然学習で使用する城山川・大沢川などでは、年に数回の清掃活動や外来植物の刈込によって景観の維持に努めています。また、川や湧水の水質・水量にも注目して測定しています。水質は比較的良好な値で推移しているものの、水量が減少傾向にあります。

大気汚染測定は、令和元年12月から測定点を見直して継続しています。大気状態はおおむね良好に推移していますが、地区により住環境の急変もあるため調査・計測を継続していきます。

■ 西部地区の主な取組

1 大沢川・城山川クリーン活動

城山川や大沢川を「魚やホタルが棲める川に戻そう!」とクリーン活動を始め、令和元年度末で10年、計55回になりました。

9月・10月の台風と大雨の影響で支流からもごみが集まり、9月・12月の活動では15袋以上のごみを回収しました。大物の漂流ごみ・金属類もあるため、戸吹清掃事業所の協力を得て移送しています。



城山川クリーン活動

2 特定外来植物の駆除

大沢川と城山川にみられる、特定外来植物のアレチウリや要注意外来生物の刈込を、5月・9月のクリーン活動時に実施しています。9月・10月の台風と大雨の影響で川縁の雑木・雑草も一掃されたように見えてましたが、早くも発芽傾向にあります。近年は、在来種の「くず」「よし」が一面に茂る箇所が発生し、ごみ等が集中的に漂着しています。

3 河川・湧水の水質調査

川の水質調査は年2回・13地点で継続しています。

毎年6月の「水環境の全国一斉調査」に参加し、測定値を報告しています。

湧水の水質は年1回、梅雨明け時に計測しています。西部地区には湧水池が多数あり、災害時の緊急用水としても利用できます。

近年、川・湧水とも水量が少ない状況が続いており、大沢川の一部では瀬切れが生じ測定できない箇所もあります。



泉町湧水での水質調査

4 大気汚染の測定活動

西部地区は、丘陵地と河川源流・里山農地・主要3街道・住宅地域の地形から大気の汚染が起こりやすい地形にあります。令和元年から測定点を見直し、川口・恩方・元八王子地区の15か所を測定ポイントとしました。

5 環境教育支援事業の実施

(1) 環境教育支援

小学校の「総合学習」の一部として八王子の自然を体験する学習（主に川の学習）を支援しています。

令和元年度は15校（内、西部地区7校）を支援し、参加児童は延べ1,587人でした。1回目は川の様子を調べる「川しらべ」を体験し、2回目は児童の興味あるテーマで「課題別学習」に挑戦し、これらをまとめた発表会を行いました。保護者の協力を得て、無事に実施することができました。



川口川での川しらべ

(2) ダンボールコンポスト支援（弐分方小学校）

弐分方小学校では「環境教育」対象の4年生が参加しごみに対する意識（生ごみの減量とたい肥化再利用）を向上させるため学習を行っています。

西部地区の会員も、4週間にわたり毎朝児童が自宅から持参した生ごみを投入・攪拌・発酵・記録する実技指導に参加しています。令和元年度で7年目になりますが、作られた「たい肥」は野菜作りや花壇作りに活用されています。

- ・児童参加数 59人 ・ダンボールコンポスト12個
- ・生ごみ投入後 減らした生ごみ重量 110kg
- ・支援会員数 21日間 延べ57名



ダンボールコンポストたい肥作り

■ 特色のある取組

西部地区は広い地域性と恵まれた自然環境から、毎回コースを変えて自然体験講座を実施しています。基本的に“歴史を巡る”シリーズで企画しています。

令和元年度は、11月に日本の百名城「八王子城跡めぐり」を実施しました。八王子城跡のオフィシャルガイドを務めている会員が、八王子城跡を丁寧に案内しました。



八王子城跡

西南部地区環境市民会議が調べた環境の現状

高尾山には年間300万人が訪れ、豊かな自然や史跡などの宝庫です。当会では、自然観察会や環境パトロールを行い、植生、生きもの、景観、周辺の案内板などの変化を記録しています。今後は関係者とともに、現場でも情報交換を行い、より意義ある調査活動にしていきます。

湯殿川は水質が改善され、さまざまな水生生物が復活し始めており、特に、蛍の生息域が年々広がっています。しかし、川中の粗大ごみやプラスチックごみが多いため、地域と協力して川の清掃に取り組んでいます。また、流域の歴史・史跡の探索マップを作製し、川への理解を深めています。

南浅川は親しめる水辺が少ないため、市に環境改善を提案していますが、台風19号で活動地である駒木野の野草保護地も土砂で埋まるなど大きな被害を受けました。今後自然災害とどう向き合っていくかが大きな課題となっています。

令和元年度は5校で環境教育支援活動を行いました。今後、参加校が増えることを想定し、支援内容、支援体制の強化を図っていきます。

いちよう祭りでは、高校生、大学生、事業者、市民と協力しクリーンな祭りに貢献しています。その他に地域センター祭りや、町会、団体の子供を対象としたイベントにも参加し、当会の培った地域の環境情報、知見等を通じ地元と交流を図っています。

■ 西南部地区の主な取組

1 高尾山の環境保全活動

令和元年度は、年3回観察・パトロールを実施し、高尾山の多様な動植物、固有の生態系、構築物等の変化を記録しました。高尾山レンジャーとのミーティングも実現し、情報を共有することができました。

また、登山者の一極集中を避けるための、周辺の山稜への案内板・道標設置について、今後も提案を続けます。



稲荷山コースパトロール

2 地域の宝の掘り起し

自然体験講座「陵東エリアの自然と名所旧跡のハイク」を11月に開催するため、武蔵陵とその周辺の、自然や名所旧跡などの案内文を作成し準備を進めましたが、雨天のため中止しました。

また、道路建設、大型施設の開発、田畑の放置などの理由により、自然景観の変化があったため、エコミュージアムマップの見直しを行っています。各種イベントに活用し、市民に関心を持っていただくために、改訂版の発行に取り組みます。

3 里山の保全活動

地区内の里山新発見の調査を終了しました。

「池の沢に蛍を増やす会」や「林をつくるコミュニティー」と連携し、観察マップを作製し自然観察や里山体験を実施しました。新たな観察マップを基に作られたビンゴゲームやクラフトなどの工作は、自然に触れ合う楽しさを体験できると好評でした。



クラフトの工作を楽しむ

4 親しみのある水辺環境の構築

河川の水質調査(全国一斉水質調査)を行い、6月に地区内の8河川21か所で測定しました。測定地のCOD平均は0.5(昨年1.0)でした。8月には湯殿川の御霊神社付近の側溝から汚水が流れ、下流の明神橋付近で魚が被害を受けたため汚染源を調査しましたが、確認には至りませんでした。

5月に開催される“みんなの町の清掃デー”にあわせ、湯殿川の清掃を実施しました(13名参加)。自転車などの粗大ごみが捨てられていたため、啓発活動として、和合橋から白旗橋までの8つの橋のフェンスに、地元小学生が描いたポスター80枚を掲示しました。

12月には、南浅川の両界橋から五月橋までの水辺環境を調査しました(7名参加)。廿里橋付近の景観の改善(不要な排水管の撤去)、陵南公園沿いの踏み石の再設置、東横山橋下流への新たな踏み石の設置と水辺階段の改善を市に提案しました。10月の台風19号については、小仏川・南浅川の被害をつぶさに調査・確認しています。



ポイ捨て防止ポスター設置

5 生活環境保全

大気汚染NO₂調査を行い、6、12月に32か所で定例の測定を、さらに高尾大型商業施設開店に伴う汚染調査を土、日曜日に追加測定しました。6年間の経過をみると、曜日による差は見られず、店舗開店による影響はないと判断しました。定例の測定値は、若干低下傾向にあります。

6 環境教育支援

地区内支援校は5校(808名)、支援者数延べ100名(当会82名)で12回実施しました。緑が丘小、栲田小、東浅川小、横山第二小、長房小の4年生と、近くの河川で魚、植物の採取体験や、自ら興味ある課題を見つけ取り組む「課題別体験学習」を各校2回ずつ実施しました。

栲田小での学習では、河川の近隣住民に、河川の環境問題や、生活と河川の結びつき等取材し、生活環境の重要性を学びました。

7 地域の環境活動との連携

いちよう祭りにて「ごみ分別指導」を行い、当会24名が参加しました。桑志高校、富士森高校と大学生約280名が参加し、ごみの分別を指導しました。1年生が全員参加する桑志高校では事前説明会を開き、ごみ総合相談センターが市のごみの現状を説明しました。当会は、平成30年度に続き資源プラスチックの回収に重点を置き、プラスチックによる環境汚染を提起しました。

7月に原宿町会主催の「子供会・川の学習」を陵南公園沿いの南浅川で実施しました。8月には、生活クラブ主催の「わたしのまちの水辺調査」を小田野公園の北浅川で実施しました。当会からそれぞれ9名が参加し、魚、水生生物を採取し、子供達と川について楽しく学びました。

■ 特色のある取組

長房ふれあい端午まつり(5月・15名参加)、横山南市民センターまつり(10月・9名参加)で、パネルなどの展示を行いました。2、3月は「駒木野の野草保護地」にて台風19号の越水土砂の除去や修復支援に参加しました。

浅川市民センターまつり(11月)は、10月の台風19号による被災地支援のボランティア活動拠点となり中止になりました。また、施設見学会、不法投棄パトロール、野草観察会などを新型コロナウイルス感染防止対策により中止しました。

東南部地区環境市民会議が調べた環境の現状

東南部地区は、南側に多摩丘陵の一部である緑地が連なっていることもあり、一定のみどりが確保されています。しかし、近年の宅地開発の影響で、みどりは減少傾向にあるほか、手入れが行き届いていない緑地や竹林が見受けられます。

河川の状況は、浅川、湯殿川、兵衛川、山田川、寺田川の14地点で行った水質調査によると、COD値1～2（「きれい」の基準値）を示しています。

ごみについては、プラスチック、缶、ペットボトル、たばこの吸い殻などのポイ捨てが多いため、一層の清掃と啓発活動を進めなくてはなりません。近年注視しているのはプラスチックごみで、町から川、そして海へと流れていくことを止める取組を強める必要性を感じています。

16号バイパスに隣接する箇所は交通量が増えています。年2回の大気汚染調査（地区内9か所）も継続しながら、今後も大気の状態を注視していきます。

地域とのつながりを大切に、街や河川の美化に努めるとともに、新たに竹林の整備も行っています。

■ 東南部地区の主な取組

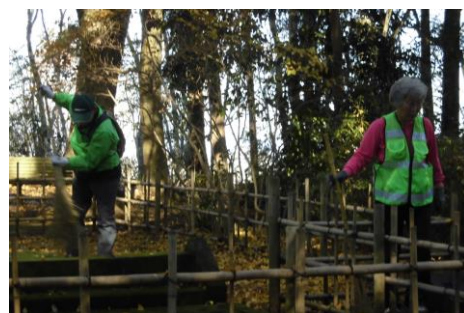
1 駅周辺のきれいさ評価や清掃活動

毎月第4月曜日に、北野駅周辺と下田橋（湯殿川）周辺の清掃を行いました。4月には、浅川市民フォーラム、都、市及び長沼町町会と合同で浅川の清掃を行い、計61名が参加しました。また、10月にはみなみ野大橋周辺（兵衛川）の清掃を行いました。

公園アドプト制度を活用し、毎月第3土曜日に大塚山公園の清掃を行いました。公園は多摩丘陵の最高地点でもあり、八王子の町が一望できるほか、絹の道に面していることから、歴史的にも興味深い公園です。

年2回（9月、3月）、地域内6駅（JR横浜線の片倉駅、八王子みなみ野駅、京王線の北野駅、京王片倉駅、山田駅、長沼駅）を清掃し、ごみの種類と数を集計しました。以前に比べてごみの量は減少傾向にありますが、喫煙所が少なくなる中で、たばこのポイ捨てが多く見られました。

12月には、市、北野町会及び打越町会と協働で、北野駅前にて喫煙マナーアップキャンペーンを行いました。歩行者にチラシとティッシュを配布し、たばこのポイ捨て防止を呼びかけました。



大塚山公園の清掃



下田橋周辺の清掃

2 河川の水質調査と大気汚染状況調査

6月の全国一斉川の水質調査で、浅川、湯殿川、兵衛川、山田川、寺田川の14地点の調査を行いました。12月には、当会独自で同地点の水質調査を行い、COD値は1～2（「きれい」の基準値）でした。河川周辺にはレジ袋などのプラスチック、缶、ペットボトルなどのポイ捨てが見られました。特に植え込みの中に捨てられている傾向があるので、清掃、啓発活動ともに続ける必要があります。

大気汚染測定は6月と12月に行いました。16号バイパスが無料化されたこともあり、通行量が増加しています。汚染状況には大きな変化はありませんが、今後も注視していく必要があります。

3 環境フェスティバル、市民センターまつりへの出展

6月の環境フェスティバルに参加し、パネル展示やハイキングマップの配布を行いました。由井市民センターまつり（10月）、北野市民センターまつり及びみなみ野分館まつり（11月）では、6駅のごみの現状、河川の水質調査、大気汚染の現状、自然体験講座のパネルを展示しました。また、ハイキングマップ（2種）と街路樹マップを配布し、自然体験講座への参加を呼びかけました。

4 自然エネルギーや節電・省エネの出前講座

8月にソーラークッキングを、クールセンター八王子と共催しました。太陽光を集めてどれくらいのエネルギーができるか、サツマイモを使い実験しました。温度の上昇を確認できたことで、自然エネルギーを身近に伝えることができました。

5 自然体験講座

2月に八王子・日野カワセミ会の協力の下、「湯殿川の探鳥会」を開催し、片倉城跡公園から稲荷橋まで探鳥を行ったほか、講義では野鳥の生態などを学びました。あまり見られないクイナやオオバンなどを発見できました。今後も、野鳥が生息できる環境づくりが大切です。



探鳥会の様子

6 環境教育学校支援

9月に由井第三小学校の学習支援を実施し、湯殿川の歴史、野鳥、植物、水質、ごみ、魚、石などのテーマに分かれ、グループでそれぞれ調べ学習を行いました。また、他地区の学校支援への応援も行いました。

■ 特色のある取組

地域の町会と協働での清掃活動を、他地区にはない取組として、今後も継続します。

1月に、自然体験講座「イカダで川下り」で使用する真竹を伐採しました。伐採した真竹は乾燥させ、イカダ作りの材料とします。（人気の自然体験講座ですが、近年は豪雨や長雨の影響で中止が続いています。）

作業した竹林は、十分な整備がされていませんでした。今後は健全な竹林を目指して整備を進めます。伐採竹は、ダンボールコンポストの基材としても使われているので、竹の利用にもつながる取組としていきます。

東部地区環境市民会議が調べた環境の現状

東部（旧・由木村）地区の北側は多摩丘陵が東西に走り、南側は多摩ニュータウンとして、みどりの景観をそれぞれ形成しています。この地区は、空気や水の供給源であるみどり連なる多摩丘陵の里山を維持することで、人の生活と多様な生きものが生きていくことができる環境として守られています。古くは、昭和57年に「南陽台の自然を守る会（現・多摩丘陵の自然を守る会）」が発足し、以来40年近くにわたり、多くの住民の努力によって多摩ニュータウン・由木の里山保全活動が続けられてきました。

今では、別所地区の面積19.8haの「長池公園」、堀之内地区の面積5.2haの「堀之内寺沢里山公園」が整備され、隣接の東山地区も、みどりの保全を重視した、緑地に囲まれた住宅地域になっています。さらに、都の自然保護条例による里山保全地域に指定された堀之内の「宮嶽谷戸」のみどりの保全活動も進められています。

■東部地区の主な取組

1 里山保全活動の推進

長池公園や堀之内里山保全地域などで、里山・谷戸の保全活動を実施しています。平成12年に市の公園として整備されてから約20年になる長池公園では「長池里山クラブ」が活動主体となり、毎月第2土曜日を原則として、月例行事を実施しています。当会でも、毎月の火・土曜日に環境保全活動と活動の事前準備を行っています。初回は4月に行い、約70名が参加しました。主な活動は、炭焼き（4月）、田植え（6月）、稲刈り（10月）、収穫祭での餅つき（12月）、正月の「どんど焼き」、炭焼き（2月）、椎茸の駒打ち（3月）です。

堀之内里山保全地域では、主に堀之内里山管理協議会（里山農業クラブ、ユギ里山保全チーム、多摩丘陵の自然を守る会で構成）が、耕作が放棄されて荒廃した谷戸源頭部のアズマネザサやアオナリヒラタケの伐採を行い、里山の保全整備を推進しています。

また、多摩丘陵の自然を知ってもらうため、毎年2回「自然体験講座」を開催しており、4月と10月に寺沢・堀之内方面で、樹木や草花を学習しながら歩く自然観察会を実施しました。2月には、里山保全活動と親子里山体験講座を兼ねた「冬の里山探検隊 in 堀之内」を、環境保全課、堀之内里山管理協議会と共に開催しました。



苗床の苗取り（長池里山クラブ・6月）

2 花壇の維持・管理

南大沢駅前のペDESTリアンデッキ（遊歩道）に設置してある大型花壇22基の維持・管理を実施しています。南大沢駅前の花壇管理は、市の道路アドプト活動として、「南大沢みどりのサポーターの会」が主体となり、毎月2回実施しています。平成29年度の「全国都市緑化はちおうじフェア」の開催に伴い、花壇の土壌改良や園芸講習会を開催した結果、新規会員が増えました。活動

の中での要望により、道路管理者によって新しい活動看板が設置されました。環境保全課の協力により、当会でも行事計画に基づいて年間活動に携わり、6月は夏苗の植付け、7月中旬から8月は苗の植え込みと水やりを、サポーターの会と毎週交替で実施しました。春・秋恒例の「フラワーフェスティバル」では、コンテナガーデンコンテストに参加しました。

3 環境教育支援事業の推進

地区内の小学校で、川の学習を支援しました。由木東小学校では、4年生100名を対象に、6月と10月に浅川ふれあい橋付近で学習支援を行い、12月に発表会を開催しました。柏木小学校では、5年生44名の学習を支援しました。他にも、水田やカイコ飼育などの学習を支援しました。



「田んぼの学校」の田植え（里山農業クラブ・6月）

4 大気汚染測定と水質調査

大気汚染と河川の水質調査を、関係団体と協働で実施しています。大気汚染測定運動東京連絡会の主催する全都一斉測定に参加し、6月に25か所、12月に19か所の居住区域でNO₂濃度を測定しました。6月の「全国一斉水質調査」では、河川の水質（COD）を調査しました。大栗川、大田川、大栗川支流の計5か所で、底泥混入のリスクのない採水・測定を行ったところ、近年見られた高いCOD値は観測されませんでした。また、採水方法の適正化について、全国測定運動の機関誌に投稿しました。

5 豊かな自然環境への市民の親しみ向上

西緑地科学クラブとの共催で、6月の環境フェスティバルでは子どもたちに竹笛作り体験、5月から7月は長池公園自然館で里山のカイコ・シルク体験、初音笛作り、1月は里山の竹による凧作り等を実施し、市民が里山の自然と文化の豊かさに触れる機会を提供しました。

また、由木地区観察路マップ、樹木マップに加え、みどりの道（街路樹・遊歩道）マップを刊行し、八王子市図書館、国会図書館に収蔵するとともに、市民センターまつり等で市民に配布しました。

■ 特色のある取組

東部地区環境市民会議のウェブサイトを開設し、由木の里山の植物の写真などを掲載するとともに、「はちコミねっと」にも会の情報を掲載しています。由木地区自然観察路マップ、樹木マップ、みどりの道マップについてもウェブサイトに掲載し、スマートフォンなどでGPS機能を使用することで、野外で自然観察路のルートへの案内などができるようにしています。

また、定例会において隔月で学習会を開催し、環境問題の情報共有に役立てています。5月に「大気NO_x測定市民運動の成果と今後の対応提案」、7月に「マイクロプラスチックのお話」、9月に「水辺の生きもの」、11月に「八王子近郊・長池公園における食肉目動物の水辺利用」、1月に「由木のきのこを知る」、2月に「大気汚染市民活動への提言-NO_xから光化学オキシダントへの標的の転換を」を行いました。

地域の行動評価一覧

令和元年度における環境市民会議各地区の活動実績に基づき、地区の活動実績をその地区で総括的に評価したものと、その評価に対して環境推進会議で相互に評価したものを掲載しています。

<中央地区環境市民会議での総括評価>

地球温暖化防止やごみの削減についてはイベント等でその必要性を訴えることができた。川の学習では、洪水の影響で自然体験講座が中止となったが、小学校の環境教育活動や河川の調査活動などは活発に取り組むことができた。環境フォトコンテスト展では、新聞社をはじめ多くのマスコミに取り上げられ、環境保全活動の一端をアピールすることができた。

<環境推進会議での相互評価>

多くの活動を活発に実行している。2年目の開催となった環境フォトコンテストが新聞各社に取り上げられるなど、中央地区のPR活動が実を結んだ結果となった。また、浅川の巡回・調査や川の活動での成果を冊子にまとめ、関係所管に配付するなど情報発信にも努めている。生ごみのたい肥化の推進や、地球温暖化防止のための省エネ生活の推進など、地域の市民生活に合わせた活動を展開している。引き続き、活発な活動を進めていただきたい。

<北部地区環境市民会議での総括評価>

令和元年度も粛々と活動出来た。仲間を増やし知名度アップは今後も続く課題だ。

<環境推進会議での相互評価>

地域の団体と協働した緑地保全活動を継続的にを行い、小学生への環境学習の実施や、企業や学生の緑地保全活動の支援など、市の魅力のひとつであるみどりを啓発し活用する取組はとても重要であり、環境市民会議の活動を広める観点からも有効である。また、市民センターでの講座開催にあわせ市民会議のPRを行うことは、地区内にも良いPRになっている。今後も地域の環境保全活動を行うとともに、地域の魅力あるみどりを市民へ発信していただきたい。

<西部地区環境市民会議での総括評価>

令和元年度は、環境学習リーダー養成講座9期生の入会があり会員20名の体制でスタートを切った。よって各職務の役割もそれぞれにお願いし、兼務担当も少なくなり全員で取り組めるようになった。令和2年2月来、新型コロナウイルス感染症の対策が始まり、3月には行動自粛要請が実行されるにつき、地区内では市施設の利用休止から定例会が開催されず、令和元年度「活動報告・決算報告」、令和2年度「会員と役割分担・活動計画・予算計画」などの伝達徹底が郵便・PCメール送りのみとなった。

<環境推進会議での相互評価>

ダンボールコンポストを活用した学習事業や川の学習などの環境教育支援に積極的に取り組んでいる。また、外来植物の駆除にも取り組んでおり評価できる。今後それらの外来植物についての情報を広く市民に伝えるなどの活動も期待する。新たに市が保全を進めている里山である「上川の里」を紹介するパネル展示を行ったことは、市の施策とも合致したものであり、さらに「上川の里」を使用した活動を拡大していただきたい。

<西南部地区環境市民会議での総括評価>

天候及び新型コロナウイルス感染症拡大防止対策による中止を除き、計画通り実施できた。高尾レンジャーとの情報交換は有意義であり、今後連携して活動することもありえる。池の沢の自然(秋編)(春夏編)を発行した。大気汚染(NO_2 濃度)の16年間のデータをまとめた。市民に環境市民会議の事を知っていただくために、これらの市民への公開方法を検討したい。都・市・小学生を巻き込んでのポイ捨て防止キャンペーン活動はいちよう祭りでの学生・企業とのごみ分別活動と同じく、活動が横に広く広がることから評価できる。環境学習支援活動は13回行った。支援体制の強化が必要である。

<環境推進会議での相互評価>

高尾山での環境パトロールを継続的に行っているとともに、新たに他団体と連携を取り情報交換を行うなど、積極的に地区内の保全に携わっている。着実な活動が展開されており、例年行っているいちよう祭りでのごみ分別指導など、地域の町会・自治会や他の団体と連携し、学生や事業者を巻き込んだ活動は、大きな地域貢献となっている。今後も地域の町会・自治会や他の団体と連携した活動を進めていただきたい。

<東南部地区環境市民会議での総括評価>

計画した活動は「イカダで川下り」以外は実施できた。近隣町会との連携も清掃活動、喫煙マナーアップキャンペーン他、市民センターまつりに出展してより深まった。

<環境推進会議での相互評価>

東南部地区内6駅周辺のごみの量によるきれいさ評価や、町会と連携した喫煙マナーアップキャンペーン、駅周辺の清掃活動を継続して実施しており、データからもきれいなまちづくりへの効果が表れていることは高く評価できる。また、河川の清掃も町会と連携して行っている。こうした地域と連携した清掃活動を行うことは、活動を横に広げる意味から意義がある。今後も多くの市民への意識啓発につなげていただきたい。

<東部地区環境市民会議での総括評価>

ほぼ計画通りに実施できた。地域との連携した活動を心がけている。駅周辺や河川の清掃をしていると挨拶をしてくれる人がいる。少しずつ輪を広げていくことが必要。

<環境推進会議での相互評価>

長池公園などでの里山保全活動や、南大沢駅前の大型花壇の維持管理など地域の様々な団体と連携して活動しており、良好な環境づくりへの貢献度は高い。インターネットを活用した活動の発信や自然観察路マップや樹木マップの公開など、広く市民に向けた情報発信に取り組んでいる。また、会員に対しての勉強会を他地区にも広げるなど、会員間のスキルアップにも積極的に取り組んでいる。引き続き活発な活動を続けていただきたい。

第2節 環境保全団体等の活動紹介

■ひとまちみどり由木

1 概要

市立長池公園をはじめとする東由木地区公園81か所の指定管理を受託しており、街にちりばめられた公園・緑地の魅力を引き出し、様々な活動や交流の機会を創出することで、地域の方々が主役になって公園をつくっていく“市民協働型の公園管理運営”を行っています。

こうした管理運営のなかで、多様な生きものに配慮した緑地管理や自然環境の保全・環境教育など、公園として残された多摩丘陵の豊かな自然を次世代につなげていく活動に取り組んでいます。

また、体験型講座を開くことで市の環境教育にも協力しており、八王子市環境教育プログラムガイドブックに9プログラムが掲載されています。



人と自然が共に暮らす街

2 令和元年度の主な活動実績（八王子市環境教育プログラムガイドブック掲載事業）

（1）身近な野鳥しらべ

秋葉台小学校で、8年以上続いている野鳥の授業を行いました。1年をかけて野鳥の基本から双眼鏡を用いた本格的な観察までを学びます。まとめの授業では、自分のお気に入りの野鳥の作品をつくってもらい、施設や公園で展示も行いました。観察では近隣の公園を使い、身近な場所にも野鳥が暮らしていることを実感しながら学ぶことができます。（98名×4回授業）



野鳥作品づくり

（2）木の名札（樹名板）づくりと設置

鹿島小学校で、身近な公園の自然と樹木の多様性についての授業を行いました。授業では、身近な公園の歴史・貴重な樹木とその見分け方を実際に葉っぱに触れながら学び、樹名板を作成します。最後は、野外に出て公園で実際に自分たちが作った樹名板の樹木を探してもらい設置しました。低学年であっても身近な自然を楽しく学ぶことができ、作成した樹名板は地域の方々にも好評です。（17名×2回授業）



作成した樹名板

（3）体験しよう落ち葉かき

毎年冬になると、長池小学校・別所小学校の特別支援学級合同で落ち葉かきの授業を行います。学年の垣根を越えて協力して落ち葉かきを行い、最後に集めた落ち葉のなかに潜り込んで遊ぶのは達成感があるようです。近隣小学校の先生方の交流の機会にもなっています。（30名×2回授業）

■南大沢みどりのサポーターの会

1 概要

南大沢駅前の円形花壇は、多摩ニュータウン開発にあたり駅前遊歩道に22基設置されました。まちのコミュニティ醸成と賑わいの創出をはかるため、平成8年から春、秋にガーデンコンテストを通じ、市民参加による緑化推進がスタート。平成11年には「フラワーフェスティバル」及び造園会社による花壇コンクールが行われ、当時のガーデニングブームに貢献しました。

その間、平成10年度からは有志による「緑のサポーター」が花壇の水やりや花がら摘みの管理に協力。平成16年度に花壇が都から市に移管された後は、花のある花壇を残していこうと、道路アドプト団体として「南大沢みどりのサポーターの会」が発足しました。

平成29年に開催された全国都市緑化はちおうじフェアでは、コミュニティガーデナー養成講座の参加者によるワークショップが開催され、景観、コミュニティ、環境、安全に配慮した花壇づくりをめざして、新規会員が加わり活動を継続しています。

2 令和元年度の主な活動実績

(1) 花壇管理

花壇の基盤である樹木、宿根草、多年草、グランドカバーの剪定や刈込み、季節の花の植替えと手入れなどを『年間活動計画』に基づき、原則、第1金曜日と第3火曜日の毎月2回、午前10時（夏季の7～9月は、午前9時）からおおむね2時間活動しました。この間、活動日以外の毎週の火・金曜日に「灌水当番」を決め、交替で“水やり”を行いました。

その他に、南大沢の春、秋のガーデンコンテストにも協力しました。

(2) 環境負荷低減への取組

肥料や薬剤を出来るだけ減らし、下水への肥料や薬、土壌の流出がないように、植物や肥料を選択しています。

○樹木

小さな生態系、微気候の創出。

○宿根草、多年草

多様な植栽による害虫や病気の防止。灌水や肥料の低減。

○グランドカバープランツ

雑草が生えない。地温の安定。乾燥防止。土壌流出防止(グリーンベルト)。

○環境に優しい肥料

植物の生育に合わせ溶け出す肥料を使用し、豪雨時の肥料分の下水への流出を低減。



活動の様子

花壇の手入れをする会員たち



円形花壇は直径約2メートル